

技能の道

第37回

歯科技工

全国障害者技能競技大会
「歯科技工」金賞受賞

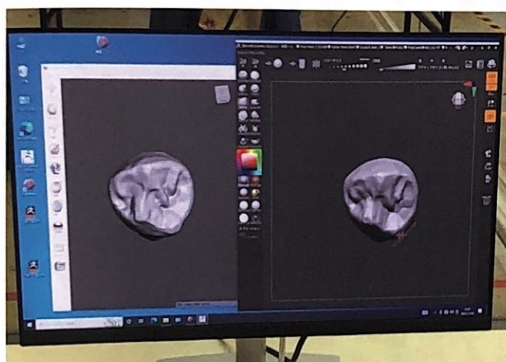
吉田勇己さん

よしだ・ゆうき ● 1995年、北海道生まれ。2020年、タカミ・オーデントに入社。歯科技工士の資格取得後から全国障害者技能競技大会への挑戦を開始。4回目の出場となる第41回大会で銀賞を、続く第42回大会で金賞を獲得。

親子2代での金賞獲得！ 研鑽を重ね 患者のQOL向上を支える人材に



真摯な仕事ぶりに周囲の信頼も厚い



指定のソフトで制作した課題の歯の形

大 会当日、午前と午後それぞれに違う部位の歯のカービング（歯型彫刻）を行う「歯科技工」種目。歯科技工物は口腔内で機能することに加えて審美的な面も求められるため、ソフトの操作はもちろん、美的センスや歯の解剖学、あごの動きを知ることが重要とされる競技です。昨年の第42回大会は、「ZBrushCoreMini 2021」というソフトを使って歯の形の優劣を競いました。

2017年に歯科技工士の資格を取得し、大会への参加資格を得た直後から挑戦を続けてきた吉田勇己さんは、5回目の出場となる第42回大会で念願の金メダルを手にしました。

「歯科技工の競技は、大会ごとに課題がまったく違います。今回はデジタルソフトを使った課題だったので、課題発表から大会までの約1カ月間、競技時間と同じ時間内で作業できるよう、週に2～3回の練習を積み重ねました」

実は吉田さんの父親も歯科技工士で、同じく「歯科技工」種目の金賞受賞者。親子2代での金賞獲得が実現しました。

「父は、自分よりも喜んでくれました。最高の結果ではありませんが、満足することなく研鑽を重ねて、患者さんのQOL向上の助けとなる仕事ができる人材になりたいと思っています。そしていつか、国際大会にも挑戦したいです」



金メダルを目標に挑戦を続けてきた

上司からのコメント

現在、歯科技工業界では、技術力を持った若い人材が不足しています。そうした状況のなか、吉田くんは常に自己研鑽を怠らず、自ら新しい技術の習得に努める数少ない歯科技工士の一人です。今後のさらなる活躍に期待しています。（今関和博さん）

★「全国障害者技能競技大会」とは

通称「アビリンピック」。障害のある人たちが技能を競う大会。大会を通じて企業や一般の人に障害者に対する理解を深めてもらう。



取材・文／国分美由紀